

経緯  
目的

- 本市は、少子化・高齢化、人口減少という難局に対し、本市単独ではなく、広島広域都市圏の33市町(R8.4時点)と連携して立ち向かうこととし、「**200万人広島都市圏構想**」を掲げ、圏域レベルでヒト・モノ・カネ・情報を好循環させ、圏域内の地域資源や地域産業が付加価値を生み続ける「**ローカル経済圏**」の構築に取り組んでいる。
- これには、「多くの人々と物の移動」が伴い、それを可能にする「**公共交通**」は欠かすことのできない「**社会インフラ**」といえる。本市としてその管理・運営に積極的に参画し、広島広域都市圏の各市町との連携の下で、ヒト・モノの移動が円滑かつ容易に行えるよう環境整備を進めていく必要がある。
- 本市域に目を向けても、本市が目指す**都市像の実現**には、公共交通は欠かすことができず、これを持続可能なものにしていくことは、広島のみならず「骨格」をつくり、自由な暮らし方や暮らしの質の向上につながり、ひいては**広島未来を明るくする**ことに他ならない。
  - ＜都市像との関わり＞ 「国際平和文化都市」・・・迎える平和など国内外からの来訪者の移動
  - ＜まちづくりの方向性との関わり＞ 「水の都ひろしま」・・・水上交通、交通結節点と河岸緑地の接続 「新しい『スポーツ王国』」・・・新アリーナ等への集客 「音楽のあふれるまちづくり」・・・各種ホール等への集客
- こうしたことを踏まえ、今後、本市は、**公共交通を軸としたまちづくりを強力に推進**していくこととし、公共交通を担う交通事業者とも、「**公共**」とも**言うべきまちづくりのパートナー**として、更なる連携強化を図り、本市を中心に、広島広域都市圏が、関西圏や福岡周辺に並ぶ西日本の拠点となり、将来にわたり持続的に発展していくことを目指す。
- そうした中、今般、広島駅2階への路面電車の乗り入れや新駅ビル建設を含む広島駅南口広場の再整備など、様々な場面で本市と協力してまちづくりを進めてこられたJR西日本より、本市の公共交通を軸としたまちづくりの方向性に賛同をいただいた上で、「まちづくり施策と鉄道施策を一体的に検討することにより、新たなまちづくりを実現したい。」との申し出をいただいたことから、今後の更なる地域活性化に向けた**包括的連携の第一弾**として、協定を締結することとしたものである。

## 連携の柱① 新アリーナ構想を契機とした**二葉の里地区**まちづくりの推進

## 連携の柱② **楕円形の都心**づくりの更なる推進

現  
状  
課  
題

- 広島ドラゴンフライズ（広島サンダースも同様）の本拠地問題（広島グリーンアリーナ暫定利用期間：2030年シーズン終了まで）
- コンサートなどの広島飛ばしによる若者離れ（5年連続転出超過最多）
- 広島高速5号線の供用や周辺の開発等による交通課題
- 広島駅周辺での帰宅困難者等の受入場所の不足

目指す  
将来像

- 新アリーナの実現によって創出される活力とにぎわいを、地域住民の日常生活と調和させ、エリア全体で「平和文化」を体現するまちを実現する

連携内容

- 【新アリーナの実現】
- 新アリーナ構想について、オール広島での実現に向け、土地所有者であるJR西日本と同地区のまちづくりの責任主体である本市が連携して取り組む
- 新アリーナが実現された際には、帰宅困難者等の受入場所として活用することも視野に、防災まちづくりを推進する
- 【新アリーナ周辺のまちづくりの推進】
- 新アリーナ実現に際しては、歩行者ネットワークや交通課題への対応など地区の安全性・回遊性の向上を図るべく、本市とJR西日本が連携して検討を進める
- 広島駅周辺の鉄道横断部における交通安全性及び南北回遊性の向上と新アリーナに至るウォークアブルな街並みを形成することも視野に、新アリーナ周辺の沿道空間や歩行空間のリニューアルについて検討する

現  
状  
課  
題

- 公共交通のあり方が変革していく中、都心の東西の核（広島駅周辺地区及び紙屋町・八丁堀地区）における交通結節点の活性化を通じた“まちの活性化”が必要
- 東西の交通結節点に位置する商業施設を運営する第三セクター（広島駅南口開発(株)及び広島地下街開発(株)）について抜本的な経営改革が必要

目指す  
将来像

- 交通結節点を起点に、東西の核間の連携強化、回遊性の向上を図り、広島広域都市圏としてのにぎわいを生む

連携内容

- 【都心の東西の核におけるまちづくりの推進】
- 「TOUCH MATCH HIROSHIMA」、「広島都心会議」など官民連携の取組との連携を強化し、エリアマネジメントを推進する
- 東西の核を結ぶ新たな歩行者ルートの形成など、回遊を創出
- 本市が主導して新設する持株会社とJR西日本が積極的に連携し、都心部の回遊性向上を図る

## 連携の柱③ **広島広域都市圏**におけるまちづくりと鉄道施策の一体的な推進

現  
状  
課  
題

- ローカル鉄道は、人口減少やモーダリゼーションの進展による厳しい経営環境などにより、これまでどおり事業者の経営努力だけで公共交通を維持するのは困難な状況
- 持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークへの見直しが必要

目指す  
将来像

- 単なる住民の移動手段の確保としてだけでなく、沿線自治体が、広域的に連携し、主体的なまちづくりを進めていくための抜本的対策の一環として、JR芸備線の活性化へ取り組む

連携内容

- 【三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会における取組の推進】
- 3市、JR西日本が連携して移動創出を図るための具体的な方策や必要となる公的支援について検討
- 広域的な観点からのまちづくりに必要なJR芸備線を軸とした公共交通ネットワークのあり方の方向性を整理し、法定協議会に移行したのち、地域公共交通計画を策定